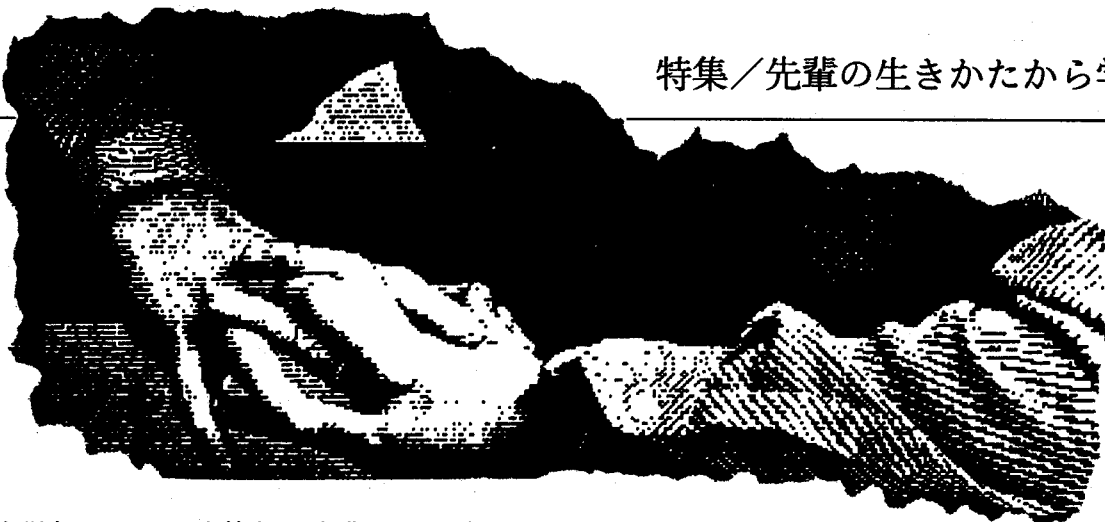


進路のしおり

特集/先輩の生きかたから学ぶ



肢体不自由養護学校の先輩から何を学ぶのか

■中学部あるいは高等部を卒業した先輩たちは、それぞれの進路先で自律的な生活を求めて奮闘中です。

さまざまな知識と工夫と勇気をだし、ときには涙を流し、ときには仲間に支えられ、ゆっくりと確実に大人への階段をのぼり始めています。

■健康上の理由や障害の状況から、やむを得ず家庭や病院での生活を送りながらも、家族・ボランティア・福祉/医療関係者に援助されて、充実した生活を模索する先輩も多数います。

■先輩たちは、それぞれの環境の中で期待と不安を交錯させ、精いっぱい生き、また語りかけようとしています。

「君たちよ、おれたちの生きざまから教訓をくみとって、これからの学習や進路先決定に活かして欲しい……………」。

- 進路先決定までの手順と方法を学ぼう
- 読み・書き・計算をしっかりと身につけよう
- 仲間と共に自律への道をさぐる
- 介助や援助をうけたらにこっと挨拶しよう
- 進路先決定の主役は君である事を忘れまい

INDEX

工場働く……………	2
在宅生活を積極的に……………	3
地域ディケア施設に通う……………	4-5
療護施設を希望……………	6
県リハでの生活……………	7
国リハに入所……………	8
資料1 進路決定までの手順……………	9
資料2 障害者施設案内……………	10-11
資料3 進路状況……………	11
あとがき……………	12



□埼玉県高等学校進路指導研究会
 /障害児教育部・肢体不自由養護学校小委員会
 □埼玉県肢体不自由養護学校/校長会

■おこしをつくって4年

- 働く時間・8時から5時までの8時間。
- 服装 ・食品製造工場だから、髪の毛からボタンのチェックまで神経を使う。
- あいさつ・朝会や帰りぎわのあいさつでは何度も失敗。
- 仕事 ・段ボール整理と組立てを1年。いまは原料をタンクに入れて砕く仕事。重いものを持つときや、あおられたり怒られたりすると、どっと疲れが出る。あしを踏み外して1ヶ月休む。むずかしい仕事には時々ついていけなくなるが、休み時間に仲間と話していると何となく元気になって仕事が見えてくる。
- からだ ・ひざと耳が不自由で、疲れたり調子が悪いと聞こえが悪くひざも曲がらない。
- 休暇 ・年に7日。全部とれない。
- 日曜出勤・ときどきある。疲れるがみんなが喜ぶので出勤する。翌日は1時間早くあがる。
- 給料 ・残業や日曜出勤して手取り13万。
- 貯金 ・だいぶ貯めた。ときどきおろす。
- つきあい・旅行でもボーリング大会でも、飲み会でも参加する。むろん割勘。
- 余暇 ・休みの日はドライブか家で休んでいる。車は2台目で無事故。高等部3年のとき運転免許をとってよかった。実技は人の3倍、法規は人の4倍かかった。おやじによく気合いを入れられたが、いつも新座の東園に（障害者自動車運転訓練施設）そっと見に来ていたようだ。
- 目標 ・高卒の同期生がやめていき、いつのまにか後輩に仕事を教えるようになった。彼女もほしいし、がんばらなくちゃ。

T.Y 君 大宮市立養護学校高等部1989.3卒

■職場入門

- 職場とは、多様な人たちが集まって、効率よくものを生産するところである。そのためにいろいろな規則やしぐみが職場にある。
- 事業所は、集団を一体化するために就業規則を設け、従業員の始業・終業時刻、休日・休暇、賃金・昇給、退職、罰則などを決めている。この就業規則（労働契約）は事業主と従業員の合意により成立し、前者には人格的な保護義務が、後者には労働義務が法令の範囲内で発生する（労使関係）。
- 障害者がはたらく場合、国は事業主と従業員としての障害者に一定の援助をして、安心して働けるように配慮をしている。
- 職場では、命令服従関係でのやくわり分担がはっきりしている。
- 職場の人間関係は、労働者としての立場、上下関係としての立場、仕事上の立場、クラブ仲間としての立場など、ややこしい。
- だから、わがまま放題の生活から規制された職場にはいる人はつらいだろうな。ストレスいっぱいアタマに血がのぼろう。そのときが職業人としての岐路だ。先輩たちはここで苦戦した。

■職場で失敗しないための先輩の声

- ・こことからだの健康管理
- ・一点集中／油断すればけがの山
- ・みだしなみは朝の洗顔から
- ・職場の規律やしぐみをあたまの中に
- ・しごとの基礎基本はそうじと連携作業
- ・職場のつきあいはていねいな言葉から
- ・お世話になったら礼状を
- ・奢られたらおごりかえす大人の社会
- ・生涯のなかまをつくる
- ・失敗しても弁解はしまい
- ・わからなければわかるまで聞く
- ・相談できるひとをたいせつに
- ・趣味を交換
- ・職業安定所と福祉事務所に近況報告を

(大宮市立養護 佐藤)

■わたしのふれんず



●卒業してから行くところがなくて家でブラブラしたり、サンアビリティーズの訓練会に出たりしていたのですが、4年前に所沢市松井公民館に喫茶店「ふれんず」がオープンし、そこでレジ係として週に何回か働くことになりました。「ふれんず」は、障害者と健常者が一緒に働くお店で、手をつなぐ親の会が運営しています。毎日障害をもつ人4人、ボランティアさん2人がローテーションで働いています。仕事はいろんなお客さんと話ができるので、とても楽しいです。

●仕事がない日は、友達とカラオケBOXに行ったり、英会話をやったりしています。会話を始めたきっかけは、海外旅行をした時に少しでも外人さんと話ができたらいいなあと思ったからです。

●海外には、希望の翼でハワイ・サイパン・オーストラリアに行きました。サイパンでは、みんなで大部屋で一晩中騒いだのがとても楽しかったし、オーストラリアでは風景がとても印象的でした。

●その他は、仲のよい友達何人かと「ファントム」というグループを作り、年に何回か国内旅行をしたりして楽しんでいます。充実した毎日を過ごしていますが、もっともっと障害をもつ人達とそうでない人達との交流のできる場所が多くなるといいと思います。

Y.Iさん

和光養護学校高等部 1983.3卒

■おばさんボランティアも

身体の不自由さも何のその、若い仲間の相談役やら、おばさんボランティアの「グチ」聞きやら、今では「ふれんず」にとってIさんはなくてはならない大里柱になっている。

仕事に関しては、Iさんには失礼に当たることも度々言ってきたと思うが、それを乗り越えてぜひ社会人として自立を目指してほしい。

これからも仲間や私達と共に、協力したり助け合って、共に成長したいものです。

■新しい生き方を

Iさんは卒業後、自宅を生活の基盤としながら、喫茶店での仕事や旅行などさまざまな人達との関わりを築いているようです。

最近、各地で発足している自立生活センターやIさんの働くお店のように、障害を持つ人達が当事者として「労働」や「ケアシステム」などを作って行く動きがあります。在宅にしろ、一人暮らしにしろ、年金や生活保護を収入として人々の中で交流を深めながらあたり前に生き、生活の質(QOL)を高めて行こうというのです。

アパートやグループホーム、Iさんのように自宅での生活など、自分自身の人生の主人公として充実した日々を送っている、そんな新しい生き方をする人達も少しずつ増えてきています。

年金等の公的補助

年金・手当等	——	1級の場合 (1993年)
国民年金障害基礎年金	年額	921,600
特別障害者手当	月額	23,400
その他の所得保障	生活保護法の適用 市町村の手当	
公的な介助費用の支給		
	「生活保護の他人介護加算 (3段階)」	
	「全身性障害者介護人派遣事業」	
	(県、市町村の事業)	

(和光養護 黒古)

在宅生活を積極的に

地域ディケア施設に通う

■どんなに障害が重くとも

◎私の娘は座位がとれず、手足も不自由で、食事をさせるのも難しく、高等部を卒業した後どうしたら良いものかいろいろ悩んでいました。しかし、家にいるだけではいけないと思い、地域のディケア施設に通えないものかと考えていました。

◎このディケア施設には、娘のような重い障害の人はおらず、皆、仕事ができる人たちでした。しかし、現場実習に参加し、最終的に入れてもらうことができました。

◎他の人達も同じように、一日過ごすのは無理なので、毎日半日だけ通所しています。半日だけというのは食事をさせるのが大変だということもあるのですが、このぐらいの時間が健康的に一番良いらしく、このディケアに通うようになってからは体重がふえ、発作もなくなって、体力もついてきたように思います。最初の一カ月は親も一緒に過ごしましたが、今は手が離れ、私も買い物に行ける時間ができました。

◎施設に行くと、みんなが仲間として考えてくれて声かけをしてくれたり、いろいろ心配して



くれます。散歩に出かける時もみんながとりっこをして車いすを押してくれます。帰るときも「僕がかたづけてやる」と言って面倒をみてくれました。

◎仕事はできなくても子供たちどうしは通じ合っていて、本人も毎日ディケアに行くのがうれしくて仕方がないようです。

◎入所施設に入るとい道もあるが、親の丈夫なうちではできるだけことはしたい、こういう子がいるということも多くの人に知らなくては、と思いました。通所できる場所があって本当に良かったと思っています。希望としては、重度の人の施設が近くにできたらいいなとも思っています。

M.Jさんの母 日高養護学校高等部1993.3卒

Aディケア施設のあらまし

- ・日課
9:00~16:00 (月から金)
M.Jさんの場合
9:00~12:00
- ・活動内容
軽作業・醤油さしのもぎ取り
袋のひも通しなど
散歩・トレーニング
諸行事・クラブ活動など
- ・通所生/養護学校卒業生、
一般企業離職者を中心に20数名

■Aディケア施設の指導員は

作業指導を中心としている施設のために、M.Jさんのように重度で通所される方については慎重に検討を重ねました。その結果、非常勤1名の増員をすることにしてバランスをとり対応しました。仲間たちとはホットな関係がもてて、本人も楽しく過ごしているようです。障害に見合った環境設定があれば、より安全に受け入れられることと思います。

■養護学校の担任から

重い障害なので、ケアのあり方の善し悪しが本人にとって特に重要になってくるお子さんでした。現在、半日通所ですが、かえって健康に良いようです。いろいろと配慮していただきながら元気に通っていて、保護者の方もとても喜んでいるようです。

■体全体が不自由で、健康維持も心配だったのですが、通所できることになって、とても良かったと思います。保護者のかたも長年地域の親の会の活動を熱心に頑張りました。

(日高養護 野口)

■ B作業所に通わせて

◎高等部卒業後どうしたらよいかいろいろ考えましたが、本人が喜んで通える場所ということで決めました。家庭から通うということになると、ここしかありませんでしたし、内容が子どもにあっていると思いました。

◎S子は言葉による意思表示は十分にはできないのですが、それでもクッキーづくりのまねをしたり、仕事の「のぼし」のまねをしてディケアでやったことを伝えます。

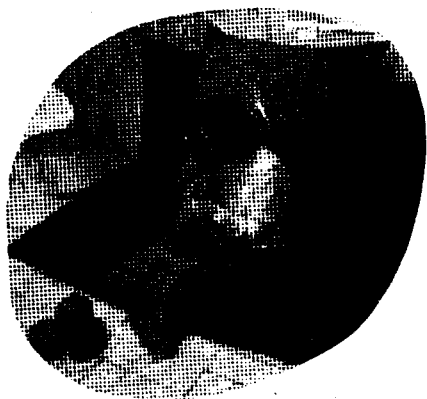
◎連絡帳やお便りは家に帰るとすぐ見せませし、その日の洗濯物は必ず出しています。朝歯磨きをしながら早く行く用意をしると要求します。仲間や先生たちとみんなでいられることがとてもうれしいのだと思います。家に帰るときにはバイバイと元気よく友達に挨拶し、知っている人や先生に会うと大はしゃぎで教えます。

◎家族はS子のほかにおばあちゃんとお父さん、お母さんそれに姉の5人です。S子なりにそれぞれに対してつき合い方をもっています。健康状態によってやむなく在宅生活になってしまう人の場合は、外からの刺激が少なくなってしまうので、できるだけ外に出すことが大切だと思います。

◎基本的には子どもは親から離れるものなので、将来は理想的な入所施設やグループホームを地域の中に作って、何かあった時にすぐ入所できたり、外泊なども柔軟にできるような生活を、させてやりたいと思います。

S.Iさんの母

日高養護学校高等部 1993.3卒



■ B作業所の指導員さんは

S.Iさんは友だちや先生が大好きで、仕事も喜んでとてもよくやります。最初多少のとまどいはあったものの、じきに慣れていろんなことができるようになりました。

B作業所のあらまし

- ・日課
9:00~16:00 (土日祝休)
- ・活動内容
ウレタン保護包装紙伸ばし
段ボール箱の張り紙はがし
マット織り・空き缶集めとつぶし
トレーニング・諸行事
- ・通所生
養護学校卒業生(肢体不自由)を中心に21名
- ・理念/どんなに障害が重くとも皆とともに成長できる場

■S.Iさんは、高等部に入ってきた時や現場実習先に行った時、初めての環境に入るのが大変で、玄関に座り込んで動こうとしなかったり、いろんな問題がありました。B作業所では、さほどのこともなくばりばり仕事をしているので成長したんだなぁと感じました。

B作業所は県条例に基づくディケア施設で県と市の補助金を受けて運営され20人未満の小規模な民間の通所施設です。

B作業所は養護学校卒業後、地域に生活の場を求めて、親たちが頑張ってやっとなんかあげた自主的な作業所です。どんな障害の種類の人、重度の人にも門戸を開いています。

(日高養護 野口)

療護施設を希望

■悩んだからこそ

●僕が熊谷養護学校に入学したのは昭和56年4月。それから12年もの間、ずっとお世話になった。これだけの年月であるから、様々な勉強をし、様々な経験も積んできた。国語や数学といった通常の科目以外で、とくに大きかったのが生徒会活動である。入学したての頃は大勢の人の前で話す事が大の苦手であった。

●しかし、先生方や友達の協力もあり、中学部・高等部と二年間生徒会長を務めることが出来た。それまで、クラスの学級委員などを何度もやっていたので、ある程度感じをつかんでいたのだと思う。いかにして皆をまとめ、引っ張っていくかということ学んだ。

●小学部卒業を間近に控えていた頃、将来に向けて大きな財産となる出会いがあった。ある先生から電動車椅子を勧められたのだ。入学した時から手動車椅子に乗っていたものの自力での移動は速度が遅く、行動範囲も狭かった。そのためどこへ行くにも、先生方や友達の介助が必要になってしまう。これが積極性を欠く原因にもなっていたのだろう。

●約半年間の練習を終え、中1の夏、電動での生活がスタートした。「もっと出来ることがあるのでは…」移動だけでも一人ですることが可能になり、こんなにも自信がつくとは想像もしていなかった。

●昔から、学校に行くのが楽しい毎日だったがそう思えたのも中学部ぐらいまでだった。目の前に大きく立ちほだかるのが進路の問題だ。高等部も二年生にさしかかると、頭の中はもうこのことでいっぱいとなった。中学部まで得意としていたある科目も、みんなより遅れをとり成績は急降下。情けなく悔しい気持ちの連続だった。

●自分にはどんな進路先が考えられるのかいつももちあがるのが、大きく分けて在宅、授産施設、療護施設の三つ。僕の希望としては、療護施設に入所し生活を送るという方向で考えていたのだが、すんなりとはいかずあせる一方だった。

●卒業式の一カ月前この問題は解決し、今年の春、希望先での素晴らしい環境の下、新しい生活が始まった。一人で買い物に出かけたり、部屋でパソコンを打ったりと、充実している毎日で、これからは「詩」にも挑戦しようと考えている。

●自分の一生、最終的に決断するのはやはり自分である。悩んで悩んで、夜眠れないほど考え込んだとしても自分で決めた道だから、きっと後悔はしないだろう。

M.Y君

熊谷養護学校高等部 1993.3卒

■療護施設長さんは ……………

卒業後の進路先を決める時は、本人はもとより親も悩むところだと思います。子供の希望や状態を考えて、親は早いうちから準備をしておく必要があると思います。それは心の準備もあるでしょうし、子供に対する経済的援助もあるかもしれません。子供が生まれてから我が子をどう育て、将来の生活をする場をどう決めてゆくのか。それは、本人だけでなく家族・親族・地域をも含めて考えていくことが必要です。この療護施設の考え方は、「全ての基準は、入苑者にとって好ましいかどうかで決められるべきである。」ということです。

療護施設では、特に生産につながる作業はしていません。一日の生活を自分で組み立て実行しています。ワープロ・パソコン通信など自分の趣味を活かし、生きがいを持って生をしている人がたくさんいます。他の施設間との交流もあり、オセロ大会に情熱を燃やしている人もいます。車椅子で外出したり地域の方々を交えての行事もあり、自由に生き生きとした雰囲気のある所です。ここは50人の入所者と寮父・寮母・指導員や看護婦さん等とチームワーク良く生活をしています。

(熊谷養護 茂木)

■バスと電車にのれた

●私は、養護学校を卒業してから上尾にある埼玉県障害者リハビリテーションセンターにいろいろなことを勉強のため入所しました。
●入所して、私は、友達もいないし、知らない人ばかりで不安でした。だんだん友達とも話せるようになり、きんちょうしてねむれない日があったけど、話せるようになったら、夜もよくねられました。
●センターでは、私みたいな子が四人いて、いつも一緒に行動して、先生とワープロや料理や一人で駆めぐりに行ったり、いろんなところに出かけました。こうして半年がすぎ、今は、職業の訓練に入っています。バスや電車に乗れるようになって、楽しさもわかってきました。これからもがんばります。

N.Uさん 宮代養護学校高等部 1993.3卒

■県リハのプログラム

当センター肢体不自由更生施設では、職能訓練や生活指導を中心とした、職業的・社会的リハビリテーションを実施しています。

これまで、養護学校の卒業生も何人も入所していますが、以下の共通した課題があるように感じます。社会経験が少なく、そのために一般的常識や社会性がとぼしい。訓練に対して受け身である。自己の能力を把握できない。自己決定力に問題が見られる。こういった点を考慮した特別プログラムを、2年前から試行錯誤しながら行っているところです。

Nさんが入所して半年がたとうとしています。ひとりで、バス・電車を利用し自宅まで帰れるようになったり、調理もひとりで、ひとつひとつ自信がついてきたようです。

今後は、他人の援助や配慮に対して、気を向け、感謝の気持ちを表現できるようになることが、課題の一つであろうと、御両親ともに感じています。

(埼玉県障害者リハビリテーションセンター
相談調整課 内田さん)

■私の子離れ

◎障害者の親にとって、子どもの進路のことは一番の悩みです。親はその子にとって最良の所(社会、施設、作業所)に行ければよいけれど、障害をもっているということで、どこで受け入れてくれるかが先でした。

◎それでも、その子供が自立の第一歩になる県リハセンターという訓練の場があることを知り、今より少しでも進路に役立てられるのではないかと、当時養護学校の先生がたの勧めや当人の気持ちから、わが娘はそこに入って早6ヶ月を過ぎようとしている。

◎学校生活では通学バスに乗り毎日楽しい一日を過ごしていたが、今はひとりで寮生活(土、日は帰宅)で、バスの利用方法や電車の乗り方、また料理等の実習があり、職業の訓練ばかりでなく将来の生活等の訓練を教えていただいている。私達は、はじめ心配と不安でいっぱいだったが当人が日増しに明るくなっていくのを見て、親がまず「子離れ」しなくてはと頑張っている。障害者の親子のきずなは深く難しいけれど、「子離れ」すればきっと子供は良い方に進むに違いない。

N.Uさんの母



■現在のUさんを見ると、次第に生活していく自信がついてきているようです。そしてその自信が積極的に社会の中で生きていく力と結びついていくと思います。

(宮代養護 瀬田)

国
リ
ハ
に
入
所

■ワークで頑張っています。

●私が国リハに入所したのは五月です。始めの一カ月間は、評価期間でまいにちまいにち先生の話の聞いているだけですが、とても疲れて一日のスケジュールが終わると、ひと安心で部屋に戻って休んでいます。その頃は自分の生活リズムがわからず体調を整えるのが大変でした。そして、最後の一週間からは職リハの評価が3日間入ってきました。評価の内容は、パソコン・簿記・漢字の読み・書き・数学などの試験と面接です。

●私は、車の免許がないので職能に行くことになりました。そのためにまた、職能の評価を2種類のワークショップで3日間やりました。第3ワークショップでの事務仕事を希望していたのですが、簿記の経験がないため別のワークになりそうになり、ぜひにとお願いして入れてもらい安心しました。でも、本当は職リハに行けなかった事がものすごく悲しいです。こんなことばかり思っても仕方がないので、今は自分があるワーク（更生施設職能訓練科目・手工芸等）で頑張っています。

N.Aさん 越谷養護学校高等部1993.3卒

■学校の体験を生かして

●私は、国リハへ高1の時に職場見学をし、その時に高等部を卒業してすぐに就職するよりは、センターで色々な知識や技術を身につけてから就職できたらと思い、センター入所を決めました。ここは集団生活で学校の時に、少しでも、寮生活を経験しておいて良かったと思いました。入所して2ヶ月たつ頃には、職リハ（国立の障害者職業訓練校）の一般事務に入所することができました。学校の時にワープロは、やっていたけど、簿記・パソコンはやっていなかったのもとても苦労しました。特に、パソコンは横文字を打つことが多いので、もう少し、英語に慣れておけば良かったと思いました。

O.Nさん 越谷養護学校高等部1993.3卒

■自由な生活の中で

●入所して1カ月は、ここでの訓練や生活のしかたの説明などをやりました。

●そして1カ月後の3週間で自分が希望する職業訓練の評価をしました。評価の内容は、国語・数学のテスト、ワープロの早打ちなど、どの程度の能力があるかを調べました。そして、面接が3回ありました。偉い人が5、6人ならんでいて、すごく緊張するのでふだんから慣れておけばよかったと思いました。その時、学校時代に1分間スピーチをやっておいて少し役立ったと思いました。ここでの生活と学校とのちがいは、一言で言うと自由です。でも、その分、自分自身がしっかりと行動しなければいけないところです。

M.Yさん 越谷養護学校高等部1993.3卒

■養護学校での学習を大切に

●私は今、事務の職業訓練をしています。主にキーボードの入力練習や漢字練習、計算事務、簿記などの勉強をしています。特に、簿記は初めて勉強するので最初のうちはものすごく苦労しました。今も苦労していますが、なんとか毎日を送っています。学校にいううちに一番やらないといけなかったと思うことは、勉強です。言葉の意味などがわからなかったり、一番困ることは友達との会話です。ある程度の知識がないと話についていけないと思うのです。今から前のことを後悔しても仕方がないので、国リハにいる間に色々なことを勉強していきたいと思っています。

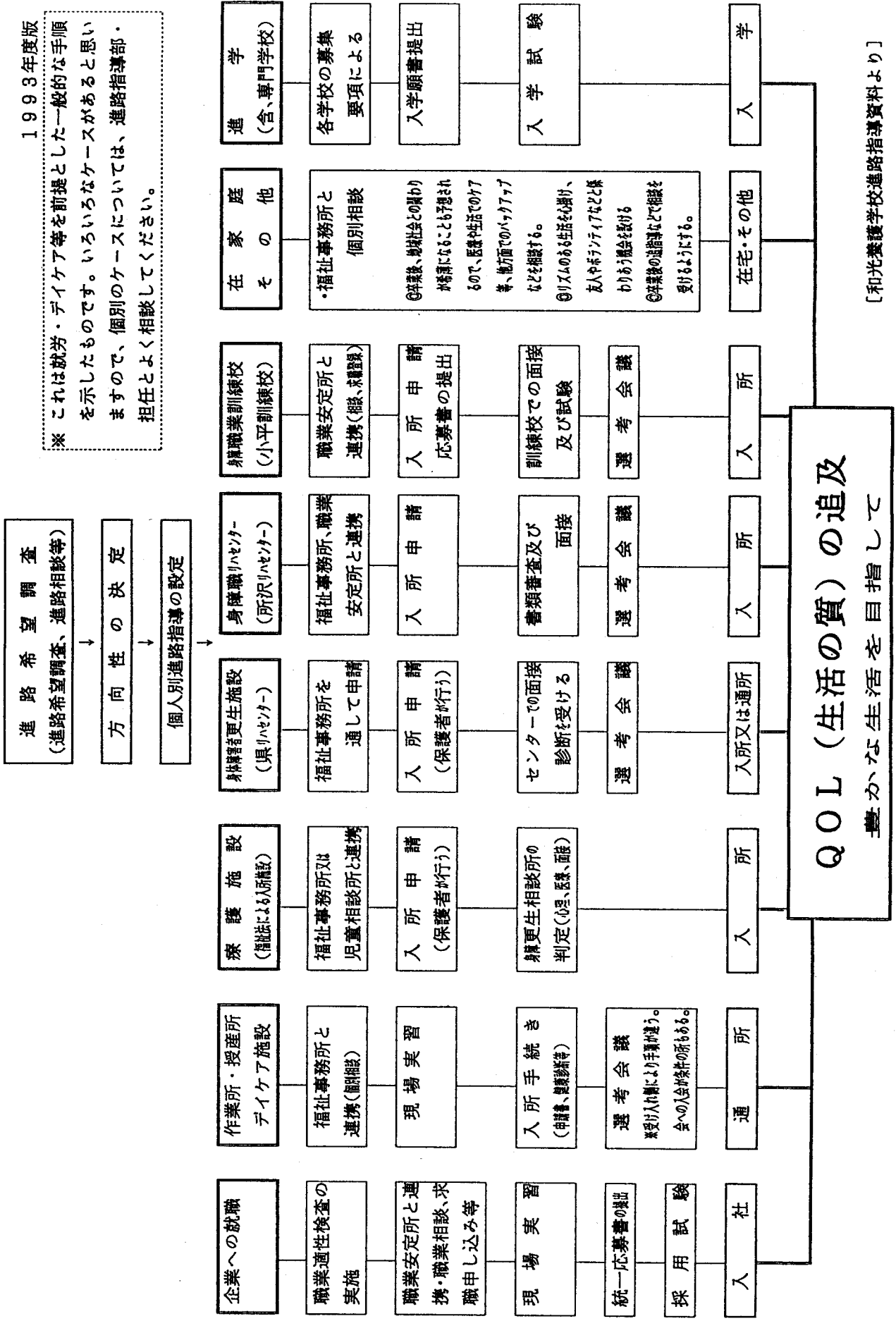
S.Sさん 越谷養護学校高等部1993.3卒

■4人の卒業生が、それぞれの思いを抱いて国リハで勉強しています。一人ひとり障害の状況が違いうように、悩みもさまざまですが、共通した悩みは「もっと学校時代に勉強しておけばよかった。」ということのようです。勉強は一生ついてくるもの。あせらず頑張っしてほしいものです。（越谷養護 宇都木）

資料1 進路決定までの手順 (例)

1993年度版

※ これは就労・デイケア等を前提とした一般的な手順を示したものです。いろいろのケースについては、進路指導部・担任とよく相談してください。



[和光養護学校進路指導資料より]

資料2-1 身体障害者福祉施設案内

種 別		内 容
更生施設	●肢体不自由者更生施設 (県リハ) …上尾 (国リハ) …所沢	・肢体不自由者の方で、ある程度の作業能力を回復しうる見込のある人を対象として、更生に必要な医学的治療訓練・職能訓練および生活指導を行います。
	●重度身体障害者更生援護施設(県リハ)	・重度の肢体不自由者に対して、更生に必要な日常生活能力の回復や自立生活に重点をおいて各種のリハビリテーションを行います。(視覚・聴覚、言語、内部障害者更生施設もあり。)
生活施設等	●身体障害者療護施設 (県内9ヶ所)	・常時の介護を必要とする重度の身体障害者に対して医学的管理下で治療及び養護を行います。
	●身体障害者福祉ホーム	・身体上の障害のため、家庭において日常生活を送るのに支障のある身体障害者に対して、その日常生活に適するような居室その他の設備が利用できるとともに、日常生活に必要なサービスをする施設。
	●重症心身障害児施設 児童福祉施設 (県内3ヶ所)	・重度の精神薄弱及び重度の肢体不自由が重複している児童を入所させて、これを保護するとともに医学的管理の下に治療及び日常生活の指導をすることを目的とする施設。
	●生活ホーム事業 (県内22ヶ所)	・身体障害者・精神薄弱者で自立した生活を希望しながらも、家庭環境や住宅事情でそれができない者に生活ホームを利用させ、社会的自立ができるようにすることを目的とした施設。
作業施設等	●身体障害者授産施設 (県内5ヶ所)	・身体障害者の方で、就職の困難なもの又は生活するのに難しいもの等を入所させ、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自活できるようにすることを目的とした施設。
	●重度身体障害者授産施設 (県内2ヶ所)	・重度の身体障害の方で就職の困難なものを入所させ、特別な設備と職員を準備し、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自活できるようにすることを目的とした施設。
	●身体障害者通所授産施設 (県内2ヶ所)	・身体障害者の方で、就職の困難なものを通所させ、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自活できるようにすることを目的とした施設。
	●身体障害者福祉工場 (新座福祉工場1ヶ所)	・生産能力があっても、通勤事情等のため、一般の企業に就職することの困難な車イス障害者等のための工場。

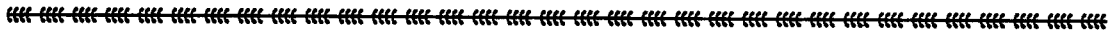
参考資料案内

- 『体の不自由な人びとの福祉』発行／(財)テクノエイド協会1500円(電)03(5684)8511は毎年6月に発行され、国の福祉対策・制度・施策の最新情報が得られます。
- 日本障害者リハビリテーション協会(電)03(5273)0601も同様の冊子・情報がたくさんあります。
- 県の社会福祉施設名簿も毎年改訂して発行されます。

資料2-2 身体障害者福祉施設案内

種 別		内 容
県・市町村の事業	●心身障害者地域 ディケア施設 (10~19名) (県内75ヶ所)	・在宅の心身障害者の社会参加の促進のため、身近な地域で通所により必要な自立訓練及び授産活動等を行い、自立向上と社会参加の助長を図ることを目的とした施設。
地域 利用 施設	●身体障害者福祉センター (A型) 都道府県指定都市単位 (県障害者交流センター)	・身体障害者に対する各種の相談に応ずるとともに、職能訓練、教養の向上、更生相談、健康の増進、社会との交流の促進及びレクリエーション等のため、利用できることを目的とする施設。
	●身体障害者福祉センター (B型) 人口10万程度の 地域を単位 (県内8ヶ所)	・外出や就労の機会が得られない在宅重度障害者が通所して、創作的活動、職能訓練、社会適応訓練等を行うための施設。
	●障害者更生センター 伊豆潮風館	・障害者とその家族が気軽に宿泊、休養し、レクリエーション等を通して、相互親睦を深め障害者の健康の増進と社会参加の促進を図るため利用できる施設。

参考資料 埼玉県生活福祉部・社会福祉施設名簿/1994. 2. 現在詳細は県および各市町村の福祉課または、各校進路部にお問い合わせ下さい。



資料3 進路状況 埼玉県内肢体不自由養護学校(全6校)

就 労	90年度	10.9%
	91年度	16.7
	92年度	19.5
訓 練	90年度	4.7
	91年度	10.6
	92年度	11.7
福 法 施	90年度	14.1
	91年度	24.2
	92年度	22.1
保 護 法	90年度	0
	91年度	0
	92年度	0
地 域 ディケア	90年度	60.9
	91年度	37.9
	92年度	33.8
家 事 手伝い	90年度	0
	91年度	0
	92年度	0
進 学	90年度	0
	91年度	0
	92年度	0
入 院	90年度	0
	91年度	0
	92年度	1.3
在 家 庭	90年度	9.4
	91年度	15.2
	92年度	7.8
他	90年度	0
	91年度	0
	92年度	1.3
未 定	90年度	0
	91年度	0
	92年度	0

卒 業 生 総 数	
年 度	合 計
90年度(平2)	64名
91年度(平3)	66名
92年度(平4)	77名

§分類について§

- 「就 労」 (一般の事業所、公務員など)
- 「訓 練」 小平職業訓練校、国立職業リハなど
- 「福 法 施」 身体障害者福祉法等による施設
授産、更生施設など
- 「保 護 法」 生活保護法による無認可施設
- 「地 域 迪 ケ ア」 県条例による無認可施設 (定員10~19名)
- 「進 学」 大学、専門学校等
- 「 他 」 自宅待機等

あ と が き

肢体不自由養護学校・進路指導担当者の集まりの中で「進路についてなるべく分かりやすく、読みやすく、具体的な手引きとなるような共通な冊子が作れるといいな!」という話が持ち上がって、約一年、ここに“進路のしおり”第1号を無事発行することができました。

内容については、これから社会に巣立っていく在校生向けのものとし、卒業生が在学中どのように進路について考え、迷い、行動し、決定していったのか、そして現在どのようにして生活しているのかということを中心にまとめることにしました。

卒業生本人の原稿だけでなく、保護者・進路先からの指導・助言と、各校の進路担当者の一言も載せてあります。

このようにして多くの方々のご協力を得られ発行することができて、本当に感謝しております。

この進路のしおりは継続して発行していきたいと思っていますので、今後も皆様のご指導・ご協力をお願いいたします。

また、冊子についてのお問い合わせは、下記編集委員までお願いします。

(瀬 田)

生徒配布用「進路のしおり第1号」

発行日	1994年3月15日
編集・発行	埼玉県高等学校進路指導研究会 ／障害児教育部 肢体不自由養護学校小委員会
協 賛	埼玉県肢体不自由養護学校／校長会 宇都木 県立越谷養護学校 0489-75-2111 黒 古 県立和光養護学校 0484-65-0770 佐 藤 大宮市立養護学校 048-622-5631 瀬 田 県立宮代養護学校 0480-35-2432 野 口 県立日高養護学校 0429-85-4391 茂 木 県立熊谷養護学校 0485-32-3689

印刷所 社会福祉法人鴻沼福祉会
身体障害者通所授産施設 そめや共同作業所
048-684-1101

